

2023年11月26日(日) / 説教者：神谷武宏

説教：「キリストの香りを放て」

聖書：コリントの信徒への手紙二 2：14～3：6

先日(23日)、「沖縄を再び戦場にさせない県民平和大集会」が行われた。日本政府が「台湾有事」という言葉で煽り、だから「防衛のために、有事のために軍備が必要」とし、自衛隊の軍備強化を急ピッチで推し進め、離島の各地に自衛隊基地が造られ、琉球弧が軍事要塞と化している。沖縄は先の戦争で「軍隊は住民を守らない」ということを身をもって知る島である。与那国島から来られた方が「私たちの島が変わってしまった。広大な軍事施設が造られ、自衛隊のトラック、戦車が街を通り、島が壊されて行く…。でもこの大会に勇気ももらって、希望ももらって帰ります」と話された。

《…神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ》とある。パウロの言う「勝利の行進」とは何か？当時のローマ軍が戦争に勝利するたびに勝利の凱旋がなされた。軍馬にまたがり行進する。そういう在り方を皮肉ってか、パウロは「私たちの神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ」てくださるという。「キリストの行進」とは、軍馬にまたがるというものではない。福音書に記されているエルサレム入場のことを思い出したい。イエスがまたがったのは、平和を象徴するロバだった。人々に「ホサナ」と祝福されながら、「前に行く者も後に従う者も」(マタイ 21:6～10) 連なって共に歩まれるのがイエスである。そしてキリストの平和は、《わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るとい知識の香りを漂わせてくださいます》とある。平和は「わたしたちを通じて」成されることが語られている。

もう一つ3章から。ここはコリントの教会がパウロに対して推薦状なる資格があるのかと問う。形にこだわる人々に対してパウロ言う。「あなたがたが私の推薦状」と。あなた方の存在そのものが“私の推薦状”と。すなわち、“教会がそこにある”そのことがパウロが神から用いられている一番のしるしと言っている。そのことはまた、私たちと神との関係ともよく似ていると思う。神は私たちに対しても「あなたが私の推薦状」と言ってくださっているのではないか。私たちは神との関係で何か目に見える形の絶対的保証書があるわけではない。私たちは、時に神など知らないと言ってしまう弱さの持ち主でもある。にもかかわらず、私たち一人一人の存在が、神の栄光を表すものであるという意味において「あなたが私の推薦状」ということ。そして小さな存在の私たちの群れ、その教会がここにあるということ・・・その意義は大きい。そこに教会がある。神は私たちに真の平和をくださっている。そのことを覚える時、私たちは平和ではない現状に向き合わないことは出来ない。教会は、その神の領域が侵される現状に向き合わずに、どこを向くのか？「キリストの香りを放つ」教会としてありたい。(神谷)